

<地場産農産物の加工・販売に取り組む事例>

ましゅう
○摩周草原 牛のおっぱいミルク

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	北海道川上郡弟子屈町 <small>かわかみぐんてしかがちよう</small> 弟子屈 <small>てしかが</small>				
協定面積 7,718.3ha	田	畑	草地 (100%)	採草放牧地	
			草地		
交付金額 11,578万円	個人配分			44%	
	共同取組活動 (56%)	協定農用地の整備・草地管理の適正化			23%
		乳質改善の推進			7%
		地場産牛乳の加工・販売			1%
		担い手の高齢化・後継者不足対策			1%
		作業の受委託による労務の軽減			13%
		乳牛の伝染病、防疫対策			1%
		農村景観対策			3%
		有害鳥獣による農作物被害の防止			1%
学校教育等や他集落との連携			1%		
	事業積立金			5%	
協定参加者	農業者 131人、農業生産法人 10法人、特定農業法人 1組織			開始：平成12年度	
人農地プランの作成状況	集落全域で作成済				

2. 取組に至る経緯

地場産牛乳として、平成 20 年から(有)渡辺体験牧場が「摩周草原 牛のおっぱいミルク」の販売を開始した。牛乳を飲んだ地元の方や観光客からは非常に美味しいと好評を得ているが、販売を開始したばかりということもあり、知名度が低い。

弟子屈町内で唯一、地場産で生産、加工、販売されている「摩周草原 牛のおっぱいミルク」が、今後、地元根付いた牛乳として定着し、地域の特産品となるよう取り組みを進めている。

3. 取組の内容

多くの町民に一度でも飲んでもらえるよう、集落を通して牛乳を還元している。また、ポスター、パンフレット、のぼり等を作成し、集落全体で商品PRや販売促進を行っている。このほか、地場産牛乳を利用した新たな商品の開発にも取り組んでおり、商品の幅が広がることで、更なるPR効果及び販売促進が図られている。



【集落全体会議】



【町民還元牛乳の配布】

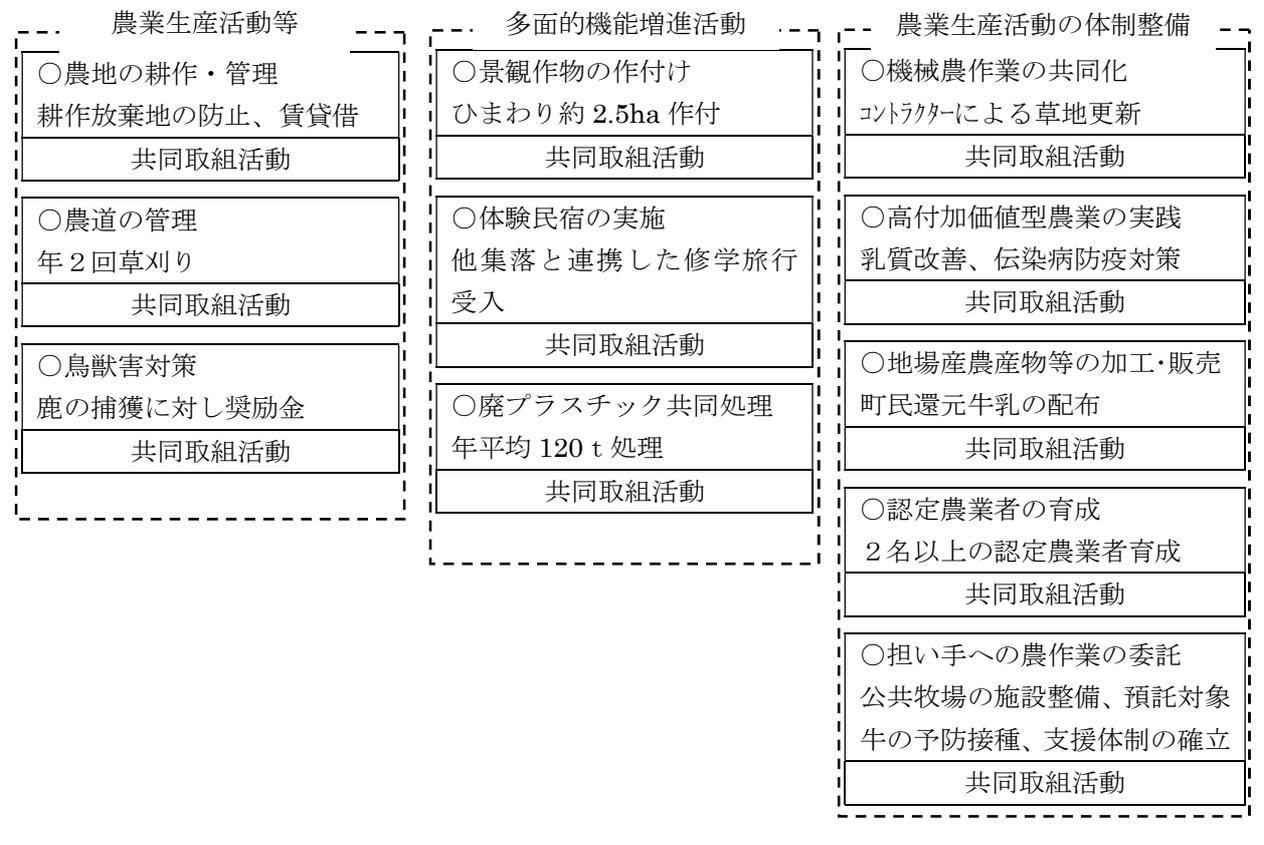
【集落の将来像】

○ 弟子屈町は、阿寒国立公園の約 70%を占める観光地域としての立地条件下にあり、農業と観光が共存している。耕作面積の多くは酪農地帯で、一部温暖な地域が畑作地帯になっており、耕畜連携が図られている。しかし、近年は担い手の高齢化、経営規模拡大等による担い手の不足により、耕作放棄地の発生や多面的機能の低下が懸念されている。本事業により、担い手の育成等による農業生産の維持、農地の保全、耕作放棄地の発生防止を継続し、生産性・収益性を向上させ、集落の活性化を図る。



【将来像を実現するための活動目標】

- ① 機械・農作業の共同化等営農組織の育成
- ② 高付加価値型農業の実践
- ③ 地場産農産物等の加工・販売
- ④ 認定農業者の育成
- ⑤ 担い手への農作業の委託
- ⑥-ア 乳牛の伝染病・防疫対策
- ⑥-イ 農村景観対策
- ⑥-ウ 有害鳥獣による作物被害の防止
- ⑥-エ 学校教育等や他集落との連携



集落外との連携

○ 修学旅行におけるファームステイの受入を、他集落と連携して行う。

4. 今後の課題等

地元の牛乳として町内外にPRするなど、集落全体の意識が向上した。また、後継者及び担い手対策について、集落全体が問題意識を共有し、対策を検討するようになった。今後も、地域の課題を集落全体で解決できるよう取組を続ける。

【第 2 期対策の主な成果】

- 牧場見学会、修学旅行受入（年 1 回）
- 協定農用地の整備（草地更新 1,164ha）
- 乳質改善（ミルカー、バルク、コンデンス点検、洗浄 搾乳農家全戸）